

小平・生活者ネットワーク

ニュース NO. 120

2014年4月20日発行

1. これからの公共施設のあり方について
2. いま知っておきたい「特定秘密保護法」、「売春防止法についての学習会」報告
3. CSWと住民がつくるしくみ、子ども模擬議会に参加、淀川区役所のLGBTのとりくみ
4. 堆肥化工場見学、ひとこと提案募集、インフォメーション

これからの公共施設のあり方について

将来のまちづくりを見据え

市民とともに考える

高度成長時代に集中的に整備された日本の公共施設の多くが、2020年以降に建替えのピークを迎えます。超高齢社会を迎え、財政状況が逼迫する中で、今後の公共施設の建て替え問題にどう対応するかは全国の自治体にとって大きな課題です。

公共施設マネジメントの必要性

小平市では、人口が急増した1965年頃から、学校、保育園や公民館、図書館、地域センター、高齢者施設や障がい者施設などの公共施設が計画的に整備されてきました。施設の維持管理に加え、今後、老朽化による建替えや修繕を行うためには莫大な予算が必要です。生活者ネットワークの議会質問ではすべての公共施設を建替えるとした場合、424億円がかかるとの試算が示されています。

市では、昨年度今後の公共施設に関する検討を行う基礎資料として、保全状況、コストなどのデータを整理し、公共施設データ集としてまとめ



ました。今後はさらにデータの分析を行い今年度中に公共施設白書を、2015年度には（仮称）公共施設適正配置実施計画を策定するという3年間のスケジュールが示されています。

住民参加と合意に基づく全体計画の策定を！

これからの市政においては、限られた財源の中で、多様な市民ニーズに対応していくために、箱物は縮小しつつ必要なサービスは充実させていく工夫が求められます。そのため将来的な人口推計や財政予測のもと市民ニーズの変化を踏まえた公共施設マネジメントへの取り組みが課題です。単に床面積を減らすという考え方ではなく、時代の変化や小平の地域特性に合わせ、施設の有効利用や複合化、再配置も視野に入れての検討が必要であり行政の縦割りを越えた柔軟な発想が欠かせません。

生活者ネットワークでは、市民サービスの拠点となる公共施設のあり方について、行政の中だけではなく、広く市民とともに検討する場をつくることを提案しています。まずは、今年度策定する施設白書については、公共施設の現状を知ってもらうため、全てのデータを見える化し市民にわかりやすく示していく必要があります。

市民、市、議会が議論をすすめる、住民合意に基づく公共施設の全体計画をつくっていくようひき続き求めていきます。

▲老朽化が進む施設上 仲町公民館、下福祉会館 仲町公民館は図書館との合築で新しく建設中。福祉会館は築42年を経過している。